

平成 20 年度 調査研究事業

平成 20 年度 奨励研究		
研究者	研究題目・目的	助成額
岩手大学農学部 准教授 村元 隆行	<p>題目：日本短角種牛肉の肉色評価向上に関する研究</p> <p>目的：日本短角種牛肉の肉色評価を向上させるため、肉色素の発色完了までに要する時間を調べ、枝肉格付時における肉色の最適な評価時期を明らかにする。</p>	300,000
岩手大学工学部 准教授 山本 英和	<p>題目：大船渡市における地震動予測地図の作成および小学校を対象とした地域防災意識啓発に関する研究</p> <p>目的：大船渡市における宮城県沖地震を想定した地震動予測地図を作成する。および、小中学校を対象に出前講義を実施し、事前事後アンケートから出前講義が地域防災意識啓発に重要な役割を果たすことを証明する。</p>	300,000
岩手大学教育学部 教授 菅原 悦子	<p>題目：三陸地方の郷土食・行事食の再発見と、伝承の担い手育成への提案</p> <p>目的：三陸地方に現在も伝承されている特有の郷土食や行事食に関して、食材、調理方法、伝統的な食べ方や行事とのかかわりを調査し、さらに伝承の背景を明らかにする。また、これらの郷土食や行事食を次世代に引き継ぐことの意義や効果を考察し、今後の伝承の仕組みや担い手の育成について提案することを目的とする。</p>	300,000
岩手大学人文社会学部 准教授 浅沼 道成	<p>題目：田野畑村における小学校統合に伴う地域再生に関する調査研究</p> <p>目的：平成 22 年実施される田野畑村の小学校統合に伴う小学校がなくなるという地域の不安に対して、統合後の地域づくりの方向性に対して提言することが本研究の目的である。</p>	300,000
北里大学水産学部 准教授 林崎 健一	<p>題目：湾内環境モニタリングシステムの有効活用に関する研究</p> <p>目的：湾内の漁業生産に影響を与える水温や風などの環境要因をリアルタイムにモニタリングするシステムを開発し、三陸域の各湾に配備することにより、養殖業や漁獲の合理的な管理・運営を可能とする。</p>	297,000
北里大学水産学部 講師 水澤 寛太	<p>題目：教育活動に有用な小型魚類行動観察システムの開発研究</p> <p>目的：発生学および遺伝学において重要な実験動物である小型魚類「ゼブラフィッシュ」の行動をリアルタイムで観察・定量的化するツールを開発する。これを用いて魚類の行動に関わる先端基礎科学の研究を推進するとともに、実験現場を地域の児童・生徒に公開し、生命科学研究に対する関心を高める。</p>	300,000
平成 20 年度 課題解決研究		
研究者	研究題目・目的・期間	助成額

<p>北里大学海洋生命科学部 准教授 森山 俊介</p>	<p>題目：サケ頭部残滓からの機能性成分を高度有効利用した魚類の増養殖技術の開発 目的：サケ頭部の未利用資源から調製した魚介類の成長、成熟や適応などを促進する機能性有効成分を高度有効活用して、水産増養殖対象魚の生産性を向上させる増養殖技術を開発することを目的とする。 期間：平成 20 年度～平成 21 年度</p>	<p>1,000,000</p>
<p>北里大学海洋生命科学部 教授 児玉 正昭</p>	<p>題目：麻痺性貝毒の簡易測定キットの開発 目的：実用性のある麻痺性貝毒の簡易測定キットを開発し、これを商品化する基礎を築く。 期間：平成 20 年度～平成 21 年度</p>	<p>990,000</p>
<p>NPO 法人いわて地域づくり支援センター 常務理事 若菜 千穂</p>	<p>題目：教育活動に有用な小型魚類行動観察システムの開発研究 目的：発生学および遺伝学において重要な実験動物である小型魚類「ゼブラフィッシュ」の行動をリアルタイムで観察・定量的化するツールを開発する。これを用いて魚類の行動に関わる先端基礎科学の研究を推進するとともに、実験現場を地域の児童・生徒に公開し、生命科学研究に対する関心を高める。 期間：平成 20 年度～平成 21 年度</p>	<p>900,000</p>
<p>岩手大学農学部 准教授 三浦 靖</p>	<p>題目：甲子柿の最適な燻蒸脱渋方法および渋戻り抑制方法の開発 目的：甲子柿（小枝柿を燻蒸脱渋した柿）の優位性を高め、生産歩留まりを向上させる最適な燻蒸脱渋方法を確定し、生産者に広く活用を促す。さらに、賞味期間を延長させる保存方法や渋戻りしない加工技術を検討し、販売および加工領域のビジネスチャンスを創出する。 期間：平成 20 年度～平成 21 年度</p>	<p>810,000</p>
<p>岩手大学工学部 准教授 高木 浩一</p>	<p>題目：パルスパワー技術の高度利用によるさんりくブランドきのこの収穫量改善目的：パルスパワー技術を利用して簡便な高電圧短パルス発生装置を開発し、きのこへの電気刺激による生産性向上を図る。多品種きのこの安定収量の確保や増収をもとに、きのこ関連業者を中心に、地域の活性化をはかる。 期間：平成 20 年度～平成 21 年度</p>	<p>1,000,000</p>
<p>東京海洋大学海洋科学部 准教授 佐々木 剛</p>	<p>題目：宮古市における市民参加による学習教材開発と実践 目的：宮古市における豊かな自然環境を用い、専門家でない一般の方でも指導できる学習教材を開発するため市民参加型のワークショップを開催し、一般市民や児童生徒を対象とした学習教材プログラムを作成し、教育実践を行う。 期間：平成 20 年度～平成 21 年度</p>	<p>600,000</p>
<p><b>平成 20 年度 共同研究</b></p>		
<p><b>研究者</b></p>	<p><b>研究題目 ・ 目的 ・ 期間</b></p>	<p><b>助成額</b></p>
<p>株式会社小西鑄造 代表取締役社長</p>	<p>題目：廃棄サーメットを再利用する高硬度肉盛溶接の検討 目的：「廃棄されているサーメットチップ」を高硬度化肉盛溶接材</p>	<p>1,200,000</p>

<p>小西 信夫 (宮古市)</p> <p>秋田大学工学資源学部 教授 麻生 節夫</p>	<p>に再利用する技術を開発する。 期間：平成 18 年度～平成 20 年度</p>	
<p>NPO 法人遠野山・里・暮らしネットワーク 会長 糠森 隆 (遠野市)</p> <p>岩手県立大学総合政策学部 教授 吉野 英岐</p>	<p>題目：新規定住を促進するための課題と方策に関する調査 目的：本研究は遠野市をはじめとする三陸地方での新規定住者の円滑な定着と、地域社会との共存を実現するために、必要な社会的条件を明らかにし、今後の地域社会の持続可能性につながる成果をあげることが目的とする。 期間：平成 18 年度～平成 20 年度</p>	<p>600,000</p>
<p>株式会社丸辰カマスイ 代表取締役会長 田代勝男 (釜石市)</p> <p>岩手大学農学部 准教授 三浦 靖</p>	<p>題目：三陸沿岸漁獲のイサダ（ツノナシオキアミ）を利用した機能性素材の開発目的：三陸沿岸漁獲のイサダ（ツノナシオキアミ）を原料にして、(1)筋肉および内臓からタンパク質分解酵素製剤（食品加工助剤と品質改良剤）、(2)甲殻から栄養機能性素材（キチン、グルコサミン類）の製造技術の確立を行う。 期間：平成 19 年度～平成 21 年度</p>	<p>1,200,000</p>
<p>北日本水産株式会社 代表取締役 古川 末広 (大船渡市)</p> <p>北里大学海洋生命科学部 教授 高橋 明義</p>	<p>題目：稚ナマコを食害する有害プランクトンのフィルター技術による除去 目的：ナマコの種苗生産においては、稚ナマコが有害プランクトンの一種コペポーダの食害を受けて、生残率が著しく低下することが大きな問題である。本研究では、フィルターシステムにより海水中に含まれるコペポーダを除去し、ナマコの安定生産に寄与する。 期間：平成 20 年度～平成 21 年度</p>	<p>1,200,000</p>